

琉球大学第2内科での国内留学を振り返って

福島県立医科大学糖尿病内分泌代謝内科学講座 尾形絵美

2018年5月～12月までの8ヵ月間、琉球大学第2内科へ国内留学させて頂き、益崎裕章教授、岡本土毅講師のご指導のもと脳科学の観点から食行動、肥満について勉強させて頂きました。現在雪の降る福島市にありますが、本当に充実しあつという間の8ヵ月間で、つい先日まで夏の沖縄の日差しの下、がじゅまるの木を眺めながら琉大のキャンパスを歩いていたのになあ、と驚くばかりです。

2週に1度開催されるリサーチカンファでは、リサーチグループに所属するスタッフの皆様全員が集まり、代謝内分泌分野、血液分野、臨床研究、基礎研究の垣根を越え皆が議論する場で、専門分野や研究内容を超えて繰り広げられる議論を通して、研究に対する考え方や進め方を根底から学ぶことができました。また、たくさんの先生方の研究発表を通して自分も研究を進めるモチベーションを得ることもでき、リサーチカンファは本当に心に残る場所でした。実際の研究では、C57BL/6Jマウスの基本的な扱い方という基礎の部分から脳サンプリングという技術まで岡本先生と福島医大の先輩である山崎先生(琉大国内留学中)にご指導頂きました。Western Blotting、RT-PCRでは小さな脳検体を扱うために工夫されたプロトコルを岡本先生、山崎先生、リサーチコーディネータ(RC)の村山さん、野村さん、堀口さんに本当に丁寧に教えて頂き、山崎先生には8ヵ月間、研究デザイン、実験手技の実践、結果の解釈、結果の解釈から継ぎの実験計画の立て方まで、基本から全てをご指導頂きました。さらに、大学院生の與那嶺先生から、なぜ食べるのか、様々な機序を教えて頂きました。8ヵ月間、皆様からご指導頂ける素晴らしい環境の中で研究の考え方や進め方を学べたことは、今後大きな糧になる経験でした。研究に加えて、国内留学期間に *Endocrine Journal* 誌や *Metabolism* 誌の reviewer の経験や、山崎先生や益崎先生との共著での総説も書かせて頂き、医学部3年生への講義も行うなど今後の役に立つ機会もたくさん与えて頂き、これらを踏まえ今後も成長していけるように、学ぶ姿勢を持ち努力したいと思います。

医局の皆様にはバーベキューやナイトラン、沖縄屋台村での飲み会など、沖縄ならではの行事にお誘い頂き沖縄での生活も楽しむことが出来ました。とても雰囲気の良いリサーチグループで、初めての土地ながら毎日とても楽しい日々を過ごすことができ、早速沖縄での生活が恋しくなっております。

最後になりますが、国内留学を受け入れご指導頂きました益崎裕章教授、派遣頂きました福島県立医科大学 島袋充生教授、研究のご指導を頂きました岡本土毅先生、色々ご配慮頂きました医局長 森島聡子先生、研究について基本から実践、応用まで教えて頂きました山崎聡先生、大変お世話になりました大学院生の與那嶺正人先生、ジャスミン フランシスマイルマン様、RCの池松智子様、村山裕子様、野村育美様、堀口千枝様、研究から沖縄での生活まで全てサポート下さいました医局秘書の野口千佳子様、平田真美子様、安里郁子様、兼城星乃様、上間次己様、下地真澄様、第2内科の皆様にご挨拶申し上げます。